

平成 22 年度

# 島根大学教育学部附属学校園研究紀要

豊かな「社会生活」を創造する幼小中一貫教育の追究

豊かな「学び」をつくる子どもの育成 ～子どもの学びをつむぐ～

2010.11

島根大学教育学部附属学校園

# はじめに

島根大学教育学部附属学校部長

小川 巖

我が国の教員養成等諸課題について検討協議する「日本教育大学協会」の本年5月の評議員会において、「新たな教員養成の在り方」に加えて、「新たな学校教育（制度）の在り方」、さらに、これに関連した「附属学校園の在り方」がこれからの教育や教員養成に関わる中心的課題として取り上げられました。附属学校園と学部、そして、附属学校園と地域との連携が、今後ますます重要となる現状にあります。

さて、本学部は、山陰で唯一の教員養成学部の特化した平成16年度に、「一貫教育に関する実践的教育活動」の課題を掲げその検討を始めました。平成18年度から「幼小中一貫教育を語る会」においてその検討成果を公表し、平成20年度から「幼小中一貫教育研究発表協議会」の開催に至りました。今年度の研究発表協議会は第3回になります。

本学校園での一貫教育の目標は、以下のものです。

- ・新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども（(地域)人材の育成)
- ・豊かな感性を育み、創造的に探究し続ける子ども（豊かな学力）
- ・人とのかかわりを大切にし、共に伸びていく子ども（豊かな人間性）

これら、目標の達成のために、幼稚園から中学校の教員の交流、幼稚園児と小学生、小学生と中学生との合同学習や共同活動を実践してきました。また新たな課題として、幼稚園から中学校までの評価の在り方やその連続性についても検討を開始しています。

今回の協議会では、特に「副題」とした「学びをつむぐ」（年齢間のつながりと、仲間間でのつながり）をめざした実践の報告を行います。また、幼小中一貫教育の意義や課題等を新たな学習指導要領の視点から、どうとらえるのかという課題に関わる講演会を設けました。本附属学校園は、平成25年度の完成をめざした一貫校化の過程にあります。今回の研究協議会では、教師交流の成果や、子どもが感じる異校種のとまどい、あるいは合同集会の成果など、これまでの実践の成果のまとめも行います。

テーマの設定や、各教科・領域における研究授業の構想にあたり、本年5月から、15名の学部教員が共同研究者になり、合同職員会後の各研究部会において協働して来ました。学部教員と附属教員の協働の成果が本紀要に表れていると思います。

また、全国にさきがけ松江市では、平成19年度より一貫教育への取り組みを開始され、本年においては全中学校区での「小中一貫教育」の推進がなされています。今回の研究協議会においても松江市・島根県の指導主事等の方々にご指導・ご協力いただきました。感謝申し上げます。

本協議会での研究成果の公表が、地域連携の活性化や、地域のモデル校としての附属学校園の貢献、これらをより一層確かなものにすることを願います。

最後に、皆さまの一層のご支援とご協力を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

# 目 次

---

|  |     |
|--|-----|
| 「本学校園の幼小中一貫教育」からの提起をめぐって                 | 1   |
| 本学校園 幼小中一貫教育体制の取組について                    | 3   |
| 教育研究の構想                                  | 11  |
| 保育・教科部会の取組                               |     |
| • 保 育                                    | 19  |
| 自ら考え、工夫し、伝え合う力を育む保育                      |     |
| • 国 語                                    | 30  |
| 学び合いの中で個の読みを広げ深める国語学習                    |     |
| • 社 会                                    | 47  |
| 子どもの発達段階に即した社会認識の育成をめざす社会科学習             |     |
| － 思考力・判断力・表現力を育てる学び合いのあり方 －              |     |
| • 算数・数学                                  | 64  |
| 豊かに考え、表現する算数・数学学習                        |     |
| － 学び合いの中で、数学的な思考力・判断力・表現力を育む授業づくり －      |     |
| • 理 科                                    | 81  |
| 科学的思考力を育む学び合いの理科学習                       |     |
| • 音 楽                                    | 98  |
| 学び合いの中で思考力・判断力・表現力を育む音楽学習                |     |
| • 図画工作・美術                                | 115 |
| 豊かな造形体験を活かし、自分らしい表現を追求する図画工作・美術科学習       |     |
| － 思いをつかみ伝え合う中で思考力・判断力・表現力を育て高める －        |     |
| • 体育・保健体育                                | 132 |
| 運動の心地よさを味わわせ、表現する力を伸ばす体育・保健体育学習          |     |
| － 思いや考えと作用し合う表現をめざして －                   |     |
| • 技術・家庭                                  | 149 |
| 確かな知識・技術を活かし、生活を工夫し豊かにすることができる技術・家庭科学習   |     |
| － 学び合いの中から思考力・判断力・表現力を育てる授業のあり方 －        |     |
| • 外国語活動・英語                               | 173 |
| 豊かなコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成をめざした外国語活動・英語学習 |     |
| • 保育・教科部会の成果と課題                          | 190 |
| 研究領域の取組                                  |     |
| • 保育・生活・総合                               | 193 |
| • 道徳                                     | 199 |
| • 特別活動                                   | 205 |
| • 研究領域の成果と課題                             | 211 |

---

## おわりに

本附属学校園は、平成20年4月、三附属専任の附属校園長が着任し、幼小中一貫教育体制を本格実施しました。一貫教育を中核に据えた取組は、本年度で3年目になります。そして、本年度より第二期中期計画期間を迎え、本附属学校園では、学部教員の『附属学校園研究紀要』への執筆を依頼しました。共同研究者として、より実質的な共同研究へと歩をすすめる新たな試みです。それは、本学校園の一貫教育に関わる組織運営の確立が、さらに「質的充実」に発展することを期待してのものです。

また、本学校園の一貫教育に関する教育研究は、これまで、幼小中11年間の教育に一貫性をもたせるため、各附属校園共通の育てたい子どもの姿をとらえたうえで、「子どもの学びをとらえる」〈一年次〉、「子どもの学びをつなぐ」〈二年次〉と、漸次、その内容・方法等についての実践的追究とその進展を図ってきました。そして、〈三年次〉に当たる本年度は「子どもの学びをつむぐ」とし、「つむぐ」をキーワードに取り組んでいます。「つむぐ」とは、「綿または繭を糸縫車にかけ、その繊維を引き出し、撚をかけて糸にする」(『広辞苑』より)の意味です。「つむぐ」には、昨年度までの取組を踏まえ、個と個の学びの「つながり」を「より深くより広く、より関係づけながらつないでいこう」との思いが込められています。「つむぐ」ために、教師は、子どもたちの学び合いをどのように構想し、どう働きかければよいのでしょうか。そこでは、子どもたち自らが学び合いながら思考・判断・表現等を深めていくようにするために、どう切り込めばいいのか、どうゆさぶっていくのか、教師による教授行為の質が問われます。教育の営みは、人と人との向かい合いが原点と考えます。そして、教師が働きかけることによって子どもたちの主体的な学び合いが成立します。その意味では、テーマ「つむぐ」は、教育の根本に立ち戻って教師の指導のありようを本質的に問い直すものになると考えます。

このように、本研究紀要は、一貫教育を見据えて、「子どもの学びをつむぐ」ための教師の働きかけについて日々の実践の一端を基に各教科・研究領域等で執筆しております。さらに、本研究発表会の開催及び本研究紀要をまとめるに当たりましては、執筆いただいた共同研究者の先生方はもとより、県・市の教育委員会関係からの本研究発表会助言者の先生方に適切なご指導・ご助言をいただきました。心より厚くお礼申し上げます。

こうした本附属学校園の一貫教育の取組は、なおも課題が多く見出され、未だ取組半ばではありますが、今後とも、本学校園の研究・実践に対しまして、諸先生方の温かいご理解とご批評をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成22年11月

学校園長 佐々有生

◆ 共同研究同人一覧（附属学校園教職員並びに教育学部教員） ◆

附属学校部長 小川 巖  
 同学校園長 佐々 有生  
 同中学校副校長 大島 悟  
 同小学校副校長 永井 孝夫  
 同幼稚園副園長 赤木 寛子

【保育】

〔幼〕 加納 美紀 ○岡本 里恵 芦村こころ  
 名越 絵美 小松原知子 阿武 麻衣  
 福光 裕子 安部 美幸  
 〔学〕 野津 道代

【国語】

〔小〕 中村 紀恵 藤原 さり 喜多川昭博  
 〔中〕 ○川井 史生 林原 公子 籠橋 剛  
 〔学〕 富安 慎吾

【社会】

〔小〕 陶山 昇 高木 敏光 和田 倫寛  
 生越 公二  
 〔中〕 ○原 義昭 竹崎 葉子 前島美佐江  
 〔学〕 加藤 寿朗

【算数・数学】

〔小〕 村上 幸人 仙田 淳一 徳永 勝俊  
 〔中〕 ○後藤 幸広 光森 千修 安野 洋  
 〔学〕 富竹 徹

【理科】

〔小〕 深田 剛生 齋藤由美子 釜田美紗子  
 〔中〕 ○高橋 里美 福島 章洋 宮下 健太  
 〔学〕 松本 一郎

【音楽】

〔小〕 神門 洋子 上代 美樹  
 〔中〕 ○小村 聡 岩田 佳子  
 〔学〕 藤井 浩基

【体育・保健体育】

〔小〕 小林 敏朗 小草 康弘  
 〔中〕 ○上田亜由美 柏木 裕至 妹尾 真人  
 〔学〕 廣兼 志保

【図工・美術】

〔小〕 ○三桐 撰夫 矢野美穂子  
 〔中〕 錦織 秀行  
 〔学〕 藤田 英樹

【技術・家庭】

〔小〕 竹吉 昭人  
 〔中〕 ○井上富美子 後藤康太郎  
 〔学〕 長澤 郁夫 丸橋 静香

【外国語活動・英語】

〔小〕 深田 剛生 福島 歩惟 片寄メーガン  
 〔中〕 ○小澤 正則 高田 純子 須田 香織  
 錦織麻里子  
 〔学〕 縄田 裕幸

【子ども支援（特別支援教育・養護教諭）】

〔幼〕 小松原知子  
 〔小〕 宮崎 紀雅 野津 道人 三井久美子  
 池田 真弓 小川真由子  
 〔中〕 奈良井 正 門脇 奈緒 古瀬 知美  
 金岡真貴子

【保育・生活・総合】

初等部前期 〔幼〕 岡本 里恵 芦村こころ  
 〔小〕 ○藤原 さり 矢野美穂子  
 初等部後期 〔小〕 三桐 撰夫 深田 剛生  
 池田 真弓  
 中 等 部 〔小〕 喜多川昭博  
 〔中〕 錦織 秀行 上田亜由美  
 原 義昭 小澤 正則  
 岩田 佳子 光森 千修  
 〔学〕 川路 澄人

【道徳】

初等部前期 〔幼〕 加納 美紀 阿武 麻衣  
 〔小〕 中村 紀恵 小林 敏朗  
 初等部後期 〔小〕 高木 敏光 徳永 勝俊  
 齋藤由美子 生越 公二  
 中 等 部 〔小〕 仙田 淳一 三井久美子  
 〔中〕 ○安野 洋 福島 章洋  
 柏木 裕至 後藤康太郎  
 籠橋 剛 錦織麻里子  
 須田 香織 小村 聡  
 奈良井 正  
 〔学〕 西田 忠男

【特別活動】

初等部前期 〔幼〕 名越 絵美 小松原知子  
 〔小〕 ○和田 倫寛 上代 美樹  
 野津 道人  
 初等部後期 〔小〕 小草 康弘 神門 洋子  
 竹吉 昭人 福島 歩惟  
 小川真由子  
 中 等 部 〔小〕 釜田美紗子  
 〔中〕 前島美佐江 井上富美子  
 高橋 里美 林原 公子  
 後藤 幸広 妹尾 真人  
 宮下 健太 門脇 奈緒  
 川井 史生 古瀬 知美  
 金岡真貴子  
 〔学〕 熊丸真太郎

○：主任 〔幼〕：幼稚園 〔小〕：小学校 〔中〕：中学校 〔学〕：学部共同研究員

平成22年11月 印刷

平成22年11月 発行

発行 島根大学教育学部附属学校園

島根大学教育学部附属幼稚園 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属小学校 〒690-0882 松江市大輪町416-4

附属中学校 〒690-0824 松江市菅田町167-1

附属学校部 <http://chidori.shimane-fuzoku.ed.jp/>

印刷 (有)木次印刷

〒699-1312 雲南市木次町山方630-5